


<p>品名</p>	<p>窯業の補助具（粘土の模様付けなど）</p> 
<p>使用授業</p>	<p>作業学習（窯業）</p>
<p>主な目的</p>	<p>窯業における粘土のならし、模様付け</p>
<p>使用方法</p>	<p>① クシ：先端がギザギザになっているため、粘土に押し当てて移動させると、平行な線を一度に多く引くことができる。</p> <p>② ヘラ1：先端が鋭角になっており、粘土を平面にならず、1本の線を引く、粘土を切るといった使用ができる。</p> <p>③ ヘラ2：先端が緩やかなカーブになっており、なめらかな平面や曲面を出すことができる。</p> <p>④ たたき棒：粘土を叩いて、棒に付けられた模様を写すことができる。また、たたき棒は3本あり、それぞれ表裏に違う模様が付けられている（縦線、横線、斜め線、ランダム線、丸い穴、四角い穴）。</p>
<p>注意点</p>	<p>ヘラやクシは先端が尖っているため、使用には注意する。</p> <p>木材で制作してあるため、水分によって膨張、変形をしてしまう。</p>
<p>作り方</p>	<p>端材をベルトサンダーなどを用いて、目的の形まで研削する。</p> <p>クシは、ベルトサンダーで先端が鋭角になるまで研削した後、ノミを使用して1本ずつ歯を付ける。</p> <p>たたき棒は、木工用ヤスリを使用して目的の形状まで研削した後、ボール盤や角のみ盤を使用して丸や四角の穴を開ける。</p> <p>線を引く場合は丸鋸盤を使用し、丸鋸の刃を3mm程度出して溝を彫る。</p> <p>なお、工作機械の使用には十分に注意すること。</p>